

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域なのでと、安心されて利用されている方や他の地域から移住し利用されている方もいます。この施設が地域に根付くように意識し、地域の方との関わりを少しずつ増やしなからその方らしくを大切にしたい理念になっています。	○	地域で開催するイベントの参加や、学校の体験学習などの受け入れなどにより、交流の機会をつくり、地域との関わりを増やしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や勉強会で理念の再確認を行っている。事務所など職員が常に目に付くような場所に張り、再確認してもらう。	○	定期的に理念を確認する事を行い職員一同が共有し、実践できるようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の開催で事業所の理解と協力をしてもらうようにしている。定期的な通信で事業所の行事や地域での様子を家族や町内会を通して知らせている。	○	左に同じ
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩や買い物の時に積極的に挨拶を交わすようにしている。	○	利用者の方や職員が散歩をして知り合ったり、馴染みの関係が出来るようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、月1回発行のはなえみ便りを送り、施設内の状況を知らせている。近隣の中学生を体験学習として受け入れ、地域との交流の場をもっています。	○	今後もぜひ、続けていきたい。

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	相談があった場合には、その内容によって対応するが、特に取り組んではない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通し、利用者の方の生活支援と事業所のあり方の対確認と改善の取り組みを行う事で評価の意義を理解している。	○	職員全員で外部評価、自己評価に取り組み、いつでも最善の取り組みが出来るようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会代表、ご家族の方の意見を大切に、要望があった場合すぐに対応するようにしている。	○	左に同じ
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度的な事や、利用者の状況について相談する事があります。	○	連携の取れる関係が出来るように取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	相談事例はないが、施設長と主任は、様々な相談に関わるため、個人的に学び、知識を得ている。	○	施設長、主任だけではなく、勉強会などで職員にも学ぶ機会を作りたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の方の立場や視点に立ち、言葉や態度に関して常に虐待とならないか問いかけながら対応している。利用者の方の言動や表情を敏感に感じとり、思いやりや気配りをする事を怠らないようにしてく。	○	新人研修でも取り上げているが、他、外部研修などに参加していき知識を高めていきたい。

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明、契約の際は、ご家族の希望等を伺い、説明後、納得いただいてからサインをいただくように時間をかけている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満、苦情の発生から協議の経過、改善策など結果にいたるまで、職員や家族に報告を行っている。</p>	<p>○</p> <p>サービスを利用する立場、提供する立場、ご家族の意見に合わせて十分に協議をし、今後も改善しながら運営に反映させたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に日常の生活状況を報告したり、月1回発行のお便りでも行事内容の報告をしている。体調の変化のあった時には、その都度速やかにご家族に報告している。金銭に関しては、個人の出納帳をつくり、入金時にサインをいただき、残高を確認してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情申し立て箱を作り玄関においている。ご家族の意向を聞く機会をつくり、ご家族に協力いただきながら、運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝のミーティング、毎月の職員会議等にて意見を交換し反映させている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用される方の生活のリズムを配慮し、柔軟な調整に努めている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の状況を常に把握し、仕事を続けられるような体制作りをし、出来るだけ、離職や異動にならないように利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の力量により、外部研修等に参加させたり、職場内研修により、本人が勤務状況を振り返り、見直しや新しい気づきが出来るようにしている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の研修会の会場で積極的な意見交換や情報交換をし、今後につなげていくように努力している。</p>	<p>○</p> <p>サービスの質の向上を目指して行ける取り組みをしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>施設長は、職員にとって何がストレスになっているのかを、いち早く気づく為に声をかけたり、個人的に話をする場面を積極的に作っている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務実績、勤務状況を定期的にもなおす。1年に1度職場内訓練をもちい、自己や他者による評価を行っており、それにより、自己の気づきや反省、改善、成果によって、向上心を持って働けるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に訪問し、本人の状況を確認し、本人の求めている事等を把握するように努力している。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>施設長、主任が相談から入居までを一貫して関わり、早期に信頼関係を築くように努力している。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援について助言している。	○	左に同じ
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学の回数を増やしたり、生活の場参加してもらったりしながら馴染めるようご家族と相談しながら行っている。	○	左に同じ
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	担当制を儲け、職員と信頼関係を築き何でも話し合える関係をつくるように努力している。	○	今年度からの取り組みで、まだ信頼関係が十分ではないので、努力していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況は、常にご家族に報告を行い、面会をしてもらいよりよい生活を支えてくれている。介護計画の中で、ご家族にも協力してもらいたい件を記載し、協力していただいている。	○	左に同じ
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の気持ちを双方が思いやれるように、代弁や助言をとおして、より良い関係を保ちながら支え合えるように支援している。	○	左に同じ
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でのコミュニケーションや、今までと同様に遊びにきたり出来るように努めている。	○	左に同じ
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日課の中で、皆が集まれるよう誘導したり、いろいろな話が出るように話題を提供したりしている。	○	レクリエーションや趣味の会などを通して、多様に関わり合いが出来る事を作っていきたい。

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とされている方にはいつでも、相談できる体制をとっている。	○	利用を終了してもいつでも相談できるような、関わりを持っていただけるようにしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は生活歴や本人の発する言葉などから、日々検討し模索している。困難な場合は愛は、様々な場面をつくり、笑顔や意欲をとおして、把握するように努めている。	○	本人の順応力に応じ、新たな楽しみをつくる機会ができるよう努力していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から経過を聞き、利用されていたサービス機関等の情報より把握している。	○	左に同じ
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子を記録に残し、申し送りし、職員全員が把握できるようにしている。	○	左に同じ
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の視点で課題を分析し、様々な角度から話し合いを行っている。家族の意見やアイデアも取り入れた、介護計画を作成している。	○	左に同じ
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常時心身の変化がみられたら、分析をはじめ、本人、家族、職員などと話し合いを行い介護計画を作成している。	○	利用者にとって常時より良い暮らし方をしてもらう為に、介護計画に取り入れて、実践していきたい。

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の記録の記入とミーティングを持ち情報の共有を行っている。介護計画の見直しや評価についても常時行っている。	○	左に同じ
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在事業所で出来る多機能性については限りがあるが、イベントや広い空間を利用して行えるものを常に模索しながら支援している。	○	左に同じ
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の避難訓練の実施、近隣の教育機関からの研修やボランティアの受け入れ、地域の文化的活動に参加したりしている。	○	左に同じ
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の必要とするほかのサービスを要望する場合、事業所として出来る限り支援している。	○	左に同じ
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要であれば、利用者のご家族、総合的に支援が必要な場合に地域包括支援センターと協働している。	○	老老介護が増えている中、利用者のご家族の関係について、地域包括支援センターと、連携をとりながら行っていかなければならない場面が増えていくのではないかと思います。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時に日常の様子や病状の変化等を手紙に書き、受診時にわたしてもらったり、提携している医療機関の医師とは24時間連絡体制をとっておりいつでも相談できる。	○	左に同じ

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>受診は家族に行ってもらうが、状況や必要に応じて介護員が同伴し医師と話し合っている。家族の受診の場合は、日常の様子を書き、現在の状況がわかるようにしている。</p>	○	左に同じ
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>提携している医療機関の看護職員と気軽に相談を行っている。</p>	○	左に同じ
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家族と同伴し、病院関係者と情報交換を行っている。</p>	○	左に同じ
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>状況の変化によって必要に応じ何度も話し合いを行っている。</p>	○	左に同じ
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>状況の変化と今後想定される変化を家族や職員と話し合い、終末期のケアを実践できるか出来ないかを検討し、準備を行っている。</p>	○	左に同じ
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居の際は、面接等で知り得た情報を職員間で共有し、生活のリズムを大きく変えないように配慮している。転居の際は、グループホームでの生活の様子などを出来るだけ詳しく伝えるようにしている。</p>	○	左に同じ

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を保つような言葉遣いをしており、身の回りの援助をする時は同意を得てから行っている。個人の記録の管理は、他の人が見えないように取り扱っている。	○ 左に同じ
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、意識的にゆったりとした雰囲気、身のこなし、目線、言葉遣、を心がけ、利用者が自分の思いや気持ちを伝えやすくしている。	○ 左に同じ
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を出来るだけ優先している。散歩や希望の時間の入浴等に応えるようにしている。	○ 左に同じ
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容、整髪に気を配り、身だしなみに気をつけている。美容室は、家族や本人の希望する店に行くか、出張サービスも利用している。	○ 左に同じ
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、メニューによっては、個別の好みに配慮した食事をしている。準備や片付けも利用者の力にあわせて職員と行うようにしている。	○ 左に同じ
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは、職員が見守りの体制を充実できる時間帯にしていただけ、他の方の迷惑にならないように、たのしみを失わないように喫煙していただいています。施設から出すおやつは、全員同じものですが、個別に買って召し上がってる方もいます。飲酒は、施設としては、出しませんが、個別で楽しんでいる方もいます。	○ グループホームでのタバコによる火災が発生しており、タバコやライターの管理をしっかり行っていく。

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のチェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時の誘導にて失敗の軽減により、羞恥心を感じる場面を少なくし、トイレで気持ちよく排泄をしてもらう。	○	左に同じ
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	早朝や夜間の入浴は現在の所対応できていないが、利用者の就寝時間も早く、生活スタイルに合わせて、希望の時間に入浴できるように努めている。	○	左に同じ
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の巡回時は安眠の妨害にならないように配慮する。昼寝の時間は、その時の体調等も考慮しながらも、昼夜逆転してしまわないよう適度な時間で声かけを行い、昼間活動が出来るように気をつけている。	○	左に同じ
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を把握し日常生活の中に取り入れている。役割や楽しみを持ち生活の張り合いが出来るようにしている。	○	左に同じ
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持したいと希望されている方は、ご家族の了解の上所持可能としているが、原則は事業所で預かり、使いたい時に対応できる状況にしている。	○	左に同じ
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物の要望があった場合は速やかに対応している。	○	左に同じ
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族に協力してもらったり、介護員が付き添って出かける機会もつくっている。個別では、お誕生の企画として対応したりしています。	○	左に同じ

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば速やかに対応している。	○	左に同じ
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人のお部屋でゆっくりと過ごしていただいている。	○	左に同じ
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむおえない場合は、早急に家族とともに検討会にて協議し対応する事としている。	○	左に同じ
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	経営者の方針として、開設当時より鍵をかけています。入居されている方、ご家族にもあらかじめ伝えており、ご家族の方も鍵をかけていることで安心されています。	○	鍵をかけないこと、鍵をかけることのリスクやメリットを入居されている利用者の現状に沿って、定期的に検討をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にさりげない見守りをおこない、所在や様子を伺うようにしている。夜間は定期的な巡回を行い、状況に応じて見守りを頻回に行っている。	○	左に同じ
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律になくさずに出来る、方法をつねにくふうし、必要な利用者は使用できる状態にしている。	○	左に同じ
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月に1回の会議や毎日のミーティングの中で他の事業所で起きたニュース等を全職員に周知し、予防している。ヒヤリ・ハットを用い、想定される事故について話す機会をつくっている。	○	左に同じ

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の状況に応じて、起こり得る事故を想定し訓練を行っている。	○	今後定期的に訓練を実施し、急変時に二次的な事故につながらないようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行い、避難誘導や消防署員による効果的な誘導方法などについて学んでいる。職員、法人の緊急連絡網をつくり、緊急時の対応の体制をととのえたり、運営推進会議で、町内会にも協力を得られる連絡体制をつくっている。	○	左に同じ
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人にとってよりよく過ごすために起こり得るリスクを想定し、家族と相談し理解を得ている。	○	左に同じ
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、普段と違う様子があれば、他の職員に申し送りを行い、継続的に様子観察とバイタル測定を行う。異常が見られた場合は、医師に連絡をとり指示を仰ぎ、ご家族にも速やかに報告している。	○	左に同じ
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法について勉強する機会をつくっている。服薬の支援にかんしては本人の口のなかで飲み込むまでしっかり確認している。	○	左に同じ
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄チェックをつけ、排泄の間隔が把握できるようにしている。便秘の方には、薬だけに頼らずに食物繊維を含む食物、水分、乳製品の摂取に十分留意している。その他、毎日定期的に体操の機会をつくり、便秘の予防を行っている。	○	左に同じ
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいや義歯の洗浄、除菌等を声かけにて促し、出来る限り本人に行ってもらっている。口腔内のブラッシングを促している。	○	左に同じ

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、必要に応じて、水分の摂取量をチェックを行っており、1日の摂取量を確保している。馴染みの食器を使うなど、習慣に応じた対応をしている。	○	心身の変化に留意し、栄養摂取や水分の確保の支援をしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルにて職員の周知をはかり、対応できるように準備している。職員、利用者面会者の手指消毒の徹底。通勤着と仕事着、エプロンの使い分け、施設内の清掃、定期的な消毒を行う。	○	左に同じ
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の定期的な消毒を行っている。キッチン、冷蔵庫内の清掃消毒を行う。食中毒予防強化月間を設定し、食品の管理をきちんと行う。	○	ひ
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関外には、花壇をつくり、玄関の中には、季節をとり入れた花や飾りをしている。	○	左に同じ
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよくくようしていただくために、清潔を保つようにしている。	○	左に同じ
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、居心地の良い場所をつくれるように、テーブルやソファの位置を工夫している。	○	左に同じ

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていて、慣れたものをそのまま使っていただけるように促し、安心して落ち着いた暮らしができるように配慮している。	○	左に同じ
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全室自動換気システムを導入し常時換気を行っている。利用者の状況に合わせて、湿度や温度調節をこまめにおこなっている。	○	左に同じ
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や車椅子でもゆったり移動できる空間など自立した生活ができるように工夫をしている。	○	左に同じ
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方により、居室に目印をつけたり。トイレ等は解りやすく名前のプレートをつけ、見た目で見えるようにしている。いつも座っている場所の確保など自分の生活空間と認識してもらえるようにしている。	○	左に同じ
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに野菜を植え、いつでも利用者の方が世話をしたり、収穫したり出来るようにしている。	○	利用者と一緒に楽しく活用できる外の空間をつくっていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム はなえみ 大空ユニット

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者やご家族に安心して生活していただく為に、利用者にはコミュニケーションを十分に取りように配慮し、要望があれば速やかに対応しています。生活の中の様々な出来事を職員と共有しながらその方らしさを大切にしています。ご家族には面会を促したり、施設での状況をわかってもらえるように連絡をとり報告しています。ご家族の方の思いや要望も取り入れながら、利用者本位の考え方で、職員教育し、より良い施設運営にいかしています。